



Ogaru Times

有限会社アーティスト

第22号

2026年2月発行



OGARU TIMES

vol. 22

2026.2.10発行

INTERVIEW

モンブラン東白山台
店長

ち が は り し ゅ ん
千川原 俊

我が子の誕生を機に地元に戻り、個人店での勤務を経て有限会社アーティスターに入社した千川原俊さん。技術者としての活躍にとどまらず、店長として店舗運営を担い、社内報制作にも携わる多角的な視点は、どのように培われたのでしょうか。自らの成長を求め、組織の力で未来を切り拓こうとする姿勢に迫ります。

前職から御社に入社した理由を教えてください。

最初の勤務先は、アーティスターと同じくSPC GLOBALに所属している企業だったため、大会などを通じて会社の存在は知っていました。

転職となったのは、子どもの誕生を機に地元である八戸市へUターンしたことです。帰郷後、個人経営の小さなサロンで働く中で、「より多くのスタッフと関わり、多様な刺激を受けながら自身のスキルを高めたい」と考えるようになったのです。そこで、Uターン前に勤めていたサロンのオー

ナー経由でアーティスターの増山社長と連絡を取り、面接の機会を頂きました。スタッフ同士で切磋琢磨できる職場環境であることはもちろん、社会保障が完備されている安心感も、入社を決め手の1つとなりました。

スタイリストとしてのこだわりについてお聞かせください。

何よりも大切にしているのは、お客様とのつながりです。ほとんどの方は月に1回、多い方は2回の頻度でお会いするため、実家の家族以上に頻繁に顔を合わせる間柄です。回数を重ねるごとに、会話から得た情報が蓄積され、心の距離が縮まっていくことに喜びを感じています。

技術面では、サロンでの仕上がりだけでなく、ご自宅での「再現性」を重視しています。「手入れが楽だった」という感謝の言葉を頂いたときは、美容師冥利に尽きます。

また、お客様のご要望を伺うだけでなく、デザ

▼専門学校時代のオープンキャンパスで一枚（手前真ん中）



インカラーなどプラスアルファの提案を行うことも重要です。提案によって選択肢が増え、髪のお悩みが減れば、信頼獲得と単価アップの両立につながります。おかげさまで、現在は8割ほどが常連のお客様で、そこからご家族やご友人の紹介も多く頂いています。

店長としてのやりがいや、社内報制作を通しての気づきがありますか。

管理職は初めての経験であり、指示をもらう側から、指示を出し報告する側への転換には難しさも感じています。現在は少人数で店舗を運営していますが、4名在籍していた頃は、お客様をお待たせしないよう、的確な指示出しによるスムーズな連携を心がけていました。

また、年間の目標数値を立て、毎月進捗を確認しながら軌道修正していくプロセスは責任重大ですが、達成できたときの喜びはひとしおです。八戸エリアの店長会議で共有される他店舗の成功事例が、目標達成のための取り組みのヒントになることもあります。会議には社長も参加されるため、私たちにとっては直接お話しできる貴重な機会です。社長は多忙な中でも店舗に足を運んでくださいますし、コロナ禍のような困難な状況でも社員の生活を守るためにどうすべきかを親身になって考えてくださいました。そうしたトップの姿勢に触れることで、「会社のために頑張ろう」という思いが自然と湧いてきます。

店長業務以外では、社内報制作にも携わってきました。この業務は、普段接点の少ない他店舗スタッフの考えや人としての魅力に触れたり、現場が高く評価する人物像を知ったりできる、貴重な

場になっています。こうした学びが、お客様にくつろいでいただける「特別感」のある空間作りに活きています。

今後、どのようなチーム作りを目指されていますか。

組織として同じベクトルを向きながらも、個々の強みや性格を尊重できる環境を作りたいと考えています。例えば、特定の技術が得意なスタッフがいたのであれば、それを前面に出せるよう、活躍の機会を作ってあげるのが私の務めです。採用面接でお話しする際も、その方がどう成長したいかを聞き出し、アシストできるよう心がけています。

また、新しい人が入ることで組織に新しい風が吹いてくれますが、その際に全体の方向性がぶれないよう軌道修正を行うのも私の役割です。変化に柔軟に対応し、スタッフとともに日々成長していけるよう、私自身も努力を続けていきます。

「個人の強みを活かしながら、組織として成長したい」。お客様への細やかな配慮を忘れず、スタッフ一人ひとりの個性も大切にする千川原さん。その眼差しは、店舗の垣根を越え、会社全体の未来をしっかりと見据えています。



▲真摯なサービス提供でお客様との関係性を築いています

千川原さんってこんな人!

温かい人柄とユーモアあふれる素顔。同僚だからこそ知る、千川原さんの多面的な魅力を紹介します!



モンブラン 湊高台店 店長
ふなき れん
船木 錬さん

メッセージ

これからもお互い切磋琢磨して、会社を盛り上げましょう!

千川原さんを一言で表すと?

優しいマスコットキャラ

優しさの塊!癒しフェロモンが出ています。

尊敬しているところ

他人を思いやれる気持ちが大きく、いつも癒され、自分も支えられています。自分にはないものを持っており、尊敬しています。

印象深い思い出

仕事の話をいつも一緒にしていて、お互い向上心高め合える存在。社員旅行でも一緒に行動し、まるで私の保護者かのように面倒を見ていただき、いつも甘えています(笑)



モンブラン 東白山台店
きくち
菊池 あゆみさん

メッセージ

いつもパンやシュークリームなどの餌付け、ありがとうございます!働きすぎのため、体をもっと大切にしてください。

千川原さんを一言で表すと?

博識ポーカーフェイス

様々なジャンルの知識が豊富です。そのため、お客様との会話の中でも引き出しが多く、相手を飽きさせないところが素晴らしいと思います。そして、仕事中は「今焦っているだろうな」と思う場面でも、表情に出さず淡々とこなしているところが、ポーカーフェイスだなと感じます。

尊敬しているところ

1人で仕事をこなし、売り上げと体型をキープ

今はアシスタントがいない東白山台ですが、一人でもたくさん掛け持ちして仕事をしているところです。人が減っても売り上げをキープするために頑張る姿を尊敬します。千川原さんは毎日小学生の息子さんと学校まで歩いていますが、体重、体脂肪を減らすことなく、売り上げ同様、体型のキープもよくできていると思います(笑)

印象深い思い出

虫嫌いな千川原さんへのイタズラ

千川原さんは虫が大嫌いです。いつもポーカーフェイスな千川原さんも、虫の前では冷静ではられません。私は千川原さんにいつも様々なイタズラをしますが、2025年の夏の終わりに、店の駐車場にニラの花が咲いていたこと。2人で「綺麗だね」と話をし、千川原さんが「子どもたちに見せたい」と言ってニラの花を取ろうとしたとき、私が「クモがいるかもよ」とボソッとつぶやくと、尻もちをついて、「もう無理!もう触れない!」と言って、結局ニラの花は持ち帰れませんでした(笑)他にもたくさんイタズラをして、楽しんでます。

美容師人生グラフ

～私のターニングポイント～

「好き」を「得意」に変える、周りを頼る、接客を磨く。壁にぶつかったとき、そこには必ず突破口がありました。
3名の先輩社員が語る、アーティストに入社してからの苦悩と再起のリアルなエピソード。
今まさに悩んでいるあなたに届けたい、仕事への向き合い方がここにあります！

エリアマネージャー

つゆたに とおる

露谷 徹さん



過去にぶつかった壁

① 慣れない土地での孤立と葛藤

私は2008年に大阪から移住し、新店舗の立ち上げ店長として入社しました。当時はこれまでの実績への過信から自分のやり方を押し通そうとするあまり、スタッフと向き合うことができず、深い溝を作ってしまったのです。環境の変化と人間関係に悩み、当時の社長と部長に退職を申し出るほど追い詰められていました。

② 思わぬところで感じたマネジメントの難しさ

2023年、マネージャーという立場にありながら、自身の言動が周囲に悪影響を及ぼし、信用を損ねてしまう経験をしました。良かれと思った発言が思わぬ方向に進んでしまったのです。

ターニングポイントとなった出来事

社長や仲間の言葉が救いに

退職を申し出た際、社長と部長に「辞める必要はない。一からゆっくりやり直せばいい」と言葉をかけていただきました。そこから2年間、現場の仲間たちに支えられながら、徐々に自分を取り戻していくことができました。特に山本さんは、一回り年下ながら公私ともに親身に付き合ってくれました。また、中野渡さんは厳しいながらも私を自由にさせてくれ、働きやすい環境を作ってくれました。お二人がいなければ、今の私はありません。2023年の際は、改めて「一言一言を真剣に考えて発信しなければならぬ」と痛感。このときも、店舗のスタッフたちが私を助けてくれました。多くの困難を経験しましたが、そのたびに人に助けられ、支えられていることを実感しています。

今感じるアーティストで働くことの価値

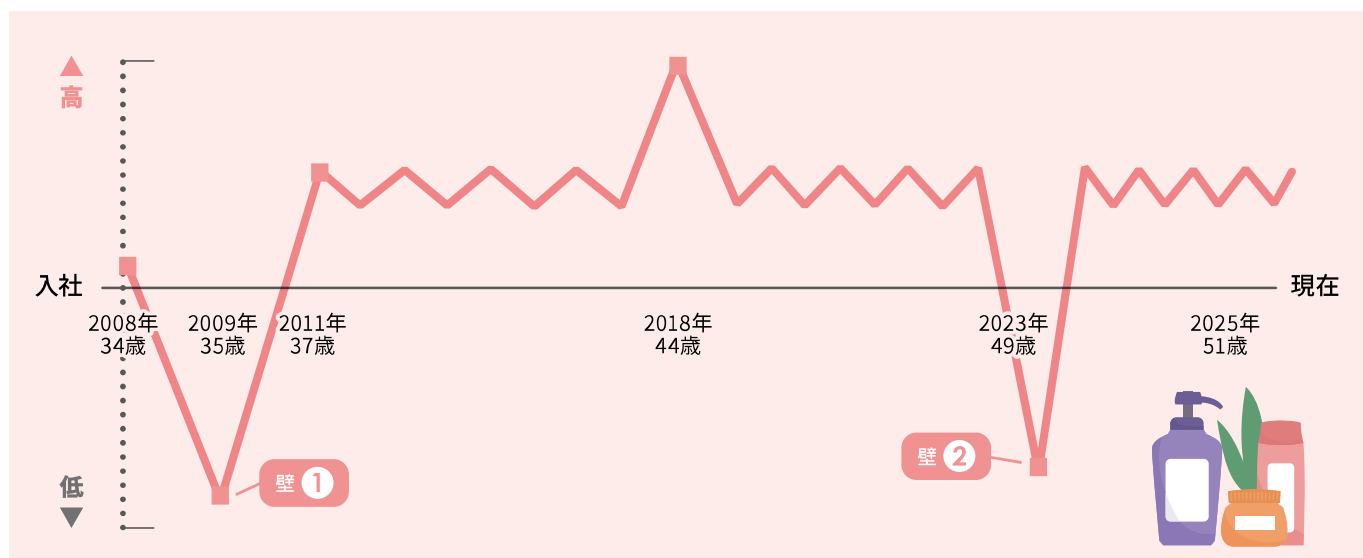
深く長く続くお客様との絆

青森では非常に長いお付き合いが続きます。拠点が移動してもついてきてくださる方や、赤ちゃんの頃から知る子が高校生になる姿を見守れるのは、この土地ならではの喜び。深く付き合うほどに青森の方々の情の深さを感じています。

若手社員の皆さんへメッセージ

「得意」を武器に歩み続ける

美容師を志す皆さんは、この仕事が「好き」で入ってきたはず。しかし、「好き」という気持ちが強いほど、壁にぶつかったときに立ち直れなくなることがあります。だからこそ、早く「得意」を増やしてください。「得意」な技術は裏切りません。その積み重ねが自分を助け、どん底から這い上がる力になります。





銀のはさみ ラッソ

えびな ともみ
蝦名 友美さん

過去にぶつかった壁

① ブランクを埋めるための過酷な日々

7年のブランクを経て働き始めたため、スタイリストとしてお客様を担当するには、すべての技術チェックをパスし直す必要がありました。週4日勤務に加え、営業後の練習や家事・育児との両立は体力的に限界に近いものでした。

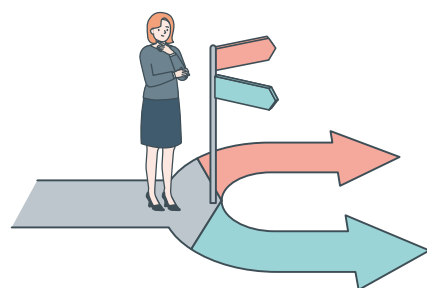
② 再デビューへの最終試験の重圧

中でも最も大きな壁となったのが「カットモデル50人」という課題。これは、スタイリストとしてデビューするための最終試験のようなもので、単に数をこなすだけでは認められません。「ばつさりとショートにする」「3cm以上切る」など、スタイルの変化を伴うモデルさんを探さなければならなかったのです。その条件に合う方を見つけるのが難しく、練習のために夜11時過ぎに帰宅することあれば、朝1時間早く出勤することもありました。思うように進まない焦りと疲労が重なり、まさに「どん底」の時期でした。

ターニングポイントとなった出来事

周囲からの支えで壁を乗り越えた

救いは周囲の協力でした。スタッフがモデルを紹介してくれ、夜遅くまで指導してくれました。家事や育児を代わってくれた家族にも感謝しています。1人ではないと実感できたことが、今の私の自信につながっています。



今感じるアーティストで働くことの価値

家庭を大切にしながら、生き生きと働ける

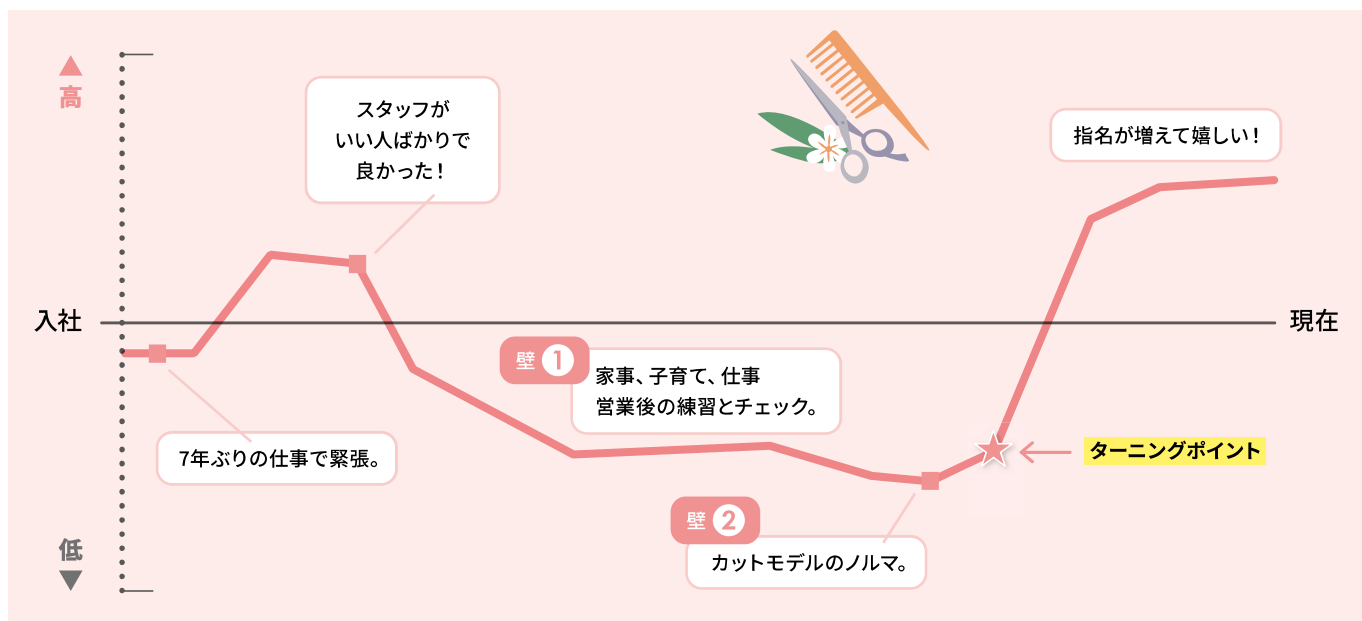
私がアーティストで働き続けたいと思う一番の理由は、やはり「人」です。どんな仕事でも、報酬や業務内容以上に、一緒に働く仲間との関係性が重要だと考えています。ここには、困っている人がいれば自然と手を差し伸べる風土があります。

また、家庭環境の変化に合わせて柔軟に働ける点も大きな魅力です。子どもの成長に伴い、土日祝日休みに変更してもらうなど、個人の事情を考慮してくれる環境には感謝しかありません。

若手社員の皆さんへメッセージ

1人で背負わず、声を上げてほしい

今、仕事や人間関係で壁にぶつかり、苦しんでいる方もいるかもしれません。私自身、全てを背負い込もうとして、うまくいかない時期がありました。「無理をしても良い結果は生まれない」と勇気を出して周りを頼ってください。開ける道がきっとあります。その苦しみは必ず未来の糧になります。





銀のはさみレーヴ店
教育班長

ささき えり
佐々木 愛莉さん

過去にぶつかった壁

終わりの見えない技術チェックの日々

入社1年目はシャンプーチェックに合格できず、「**自分は不向きではないか**」と落ち込む毎日でした。3年目のカットチェックでも再び壁にぶつかり、心が折れそうになったこともあります。それでも先輩の教えを守り、実践を繰り返しました。

ターニングポイントとなった出来事

お客様の期待が原動力に

壁にぶつかって苦しんだ時期に、私を美容師の世界に繋ぎ止めてくれたのは、お客様の存在でした。カラーやシャンプーの指名をいただいたり、「カットができるようになったら、あなたが切ってね」と声をかけていただいたり。そのような一つひとつの嬉しいお言葉が、当時の私にとって大きな励みになったのです。

技術への不安を補った「接客力」

私は、お客様に背中を押されてスタイリストデビューを果たしました。しかし、技術に自信があったわけではありません。だからこそ、技術以外の部分でも誠意を伝えようと、挨拶や笑顔、細やかな気遣いといった「**接客**」を何よりも大切にしてきました。足元や寒さへの配慮など、お客様にご満足いただけるようサービスを徹底する。その**積み重ねが、技術の壁に悩んでいた私を助けてくれた**と感じています。そのおかげか、今では多くのお客様に指名をいただけるようになりました。

今感じるアーティストで働くことの価値

お客様と長く深くつながれる場所

私がこれまで長く働き続けられたのは、当社の温かい社風があったからこそです。先輩や社長はスタッフ一人ひとりを大切にし、何かあれば親身になって相談に乗ってくださいます。また、**お客様と家族ぐるみで長くお付き合いができるアットホームな環境**は、私が働く上で重要な要素。スタッフの一人としてお客様に癒やしを提供し、信頼関係を深めていけることに、大きな喜びを感じています。

若手社員の皆さんへメッセージ

今の苦しみは必ず未来の糧になる！

現在、壁にぶつかっている若手の皆さんに伝えたいのは、「**その苦しみは決してむだにならない**」ということです。私も多々悩みましたが、目の前の課題と向き合い、お客様との関わりを大切にする中で、仕事の楽しさを見出せるようになりました。30代になった今、私は**美容師という仕事が非常に楽しい**と感じています。つらい時期を乗り越えた先には、必ず明るい未来が待っているはず。焦らず、一歩ずつ進んでいきましょう。



